

上虎倒流骨目法術相傳之卷已





# 上虎倒流骨法術相傳之卷已

姚玉虎、骨指術、飛鳥術、銛セン般石術ハンノ祖師ハ中国ニテハ古クヨリ伝ヘラレタ  
如ク玉虎ガ此術ニ最モ勝レ骨指術ニテ多クヲ倒シ、又上虎ヲ銛般石術  
ニテ重勝ヲ刀貝ハレ骨指術ニテ倒セシ程ノ達人ナル事ハ中国ニテハヨク知  
ラレ居ル也此術代々伝ヘラレ張武連ニ至リ漢国ニ歸化セシ如ク、武連ハ  
此術ヲ武勝ニ伝フ、武勝ハ武連ノ子也、姚玉虎ハ今テ少ノ美女タリ中国  
語史歷ノ如ク姚玉虎ヨリ伝ヘラレタル為メ玉虎骨指術ヲ祖トス、武  
連ノ子武勝ハ我朝天和天皇ニ癸亥年九月漢ノ孫仁師百濟ト韃  
フ、此時武勝ハ百濟ノ武將タリ時ニ百濟韃ト敗レテ百濟王餘豊高  
麗ニ走ル張武勝ハ從者ト共ニ我國ニ逃レ来ル武勝ハ骨指術、飛鳥術  
銛般石投術、サ雉刀術、十八型中国唐打術ノ達人タリ之レヲ我國ニ伝メタ  
ルヲ我國骨法術ノ祖トスノ記録残レリ然レ共天文年間以前ノ記録ハ  
明ラカテナイガ武勝ノ子孫ガ坂上田村麿デアルト云フ記録モアリ故ニ田

村鷹ハ中国帰化人デアルト云フ事ニナル。斯クノ如ク骨指術ハ古来カラ伝  
 ヘラレタガハ飛鳥術ハ後飛切ノ術ト称サレ銚般石術ハ錢投ケトナリ  
 手裏劍術ト名称ヲ拜日ヘテ伝ヘラレタ。之ノ術ガ一般ニ伝ヘラレナカツ  
 夕原因ハ主トシテ忍術者ノ秘伝トセラレタ故デアル其記録トシテ保  
 元元年丙子七月源為義斬首セラル、ヤ其臣源式部一亟朝  
 行伊加貝山石尾山ニ亡命入道シテ法玄仙人ト称シ仙人ヨク一指ヲ以テ  
 人ヲ倒ス。又其次女ヲ見タル者ナレト云フ則チ飛鳥術ヲ行ヒ骨法術ヲ  
 行ヒ以テ人ヲ倒セシ如シ玉虎飛鳥骨法術ト称スル事ヲ考ヘテモ  
 姚玉上虎ノ骨法術タル事明カナリ。法玄仙人ニ付テ学ビシ電法入道

コ、ニ伊加貝流刃心術ノ初祖トモ云フベシ

坂上田村麿後裔 玉上虎指頭術 飛龍劍ノ達人  
天文十年石見館山城 勇士 天文十年五月  
 坂上 大 郎 国 重 大内義隆ト戦ヒ敗レテ對死ス

国重ノ臣玉虎指頭術 飛鳥斬劍達人  
 曾玉觀律師

天文年間紀州至心流骨法術祖  
 依々木源太夫貞六女

依々木五郎右卫門輝頼

依々紀州方面ニ残ル

新津河内此生城主  
 河内守善鑑

善鑑流骨指術祖  
 此生判官善鑑

代々子子孫ニ伝ヘ現在尚残ル

播州本体至虎流、虎劍流骨法術、銚般石術祖  
 戸田一心文月当流也

出雲本体至虎流出雲流骨法術祖  
 寛文年間打拳骨法并經流劍法祖

鈴木大善太夫延政  
 深尾南馬重義  
 代々伝フ



虎倒流骨法術位取

右正眼



左正眼



抱

團

欄

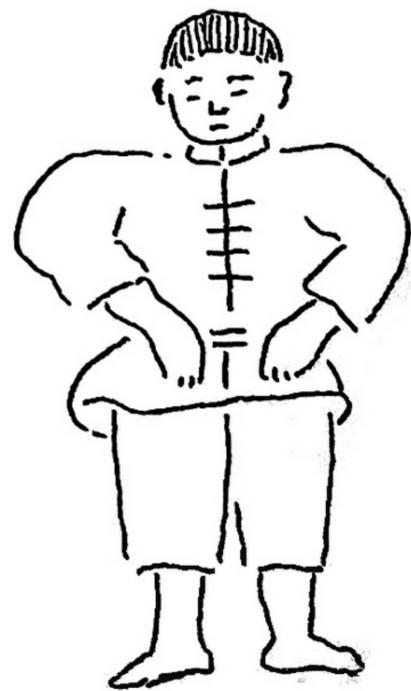


平  
一  
文  
字



# 防備ノ構

此五ツノ構ヲ五法ノ位取リト云フ。亦一國ノ右正眼ハ普通直立ノ次女勢カラ左足ヲ右側前  
カラ右側ニ踏ミ開イテ形ヲ右足ヲ越シテ丁度X字形ニ足ヲブツキガヘテ形ニシ  
テ右手五指ヲ立テ相手方ノ方ヘ突き出し左拳ヲ胸ニ亦ニ抱固ニ備ヘタル形也。左  
正眼ハ右正眼ノ反対ノ次女勢カラ取ル。此次女勢ハ始メハ二行イニクイガ練習白デア  
ル。平一文字ハ相手方ノ隙ヲ見出しテ拳又ハ指頭ヲ出ス体勢也。抱固ノ構ハ腰  
ヲ落シ兩手ヲ頸部ノ高サニ開イテ相手ノ周圍ヲ此次女勢ヲ廻リ隙ヲ見テ兩  
足ノ兩手飛込ミ当込ムノ次女勢也。防備ノ構ハ平然トシテ相手方ニ何ノ敵意  
モ無イ自然無相心トモ云フ可キ構ニテ柔カク指ミモ力ヲ入レザル形也。



# 平素系ノ練習方法

道場ノ柱ニ人体ノ太サ長サ程度ノ藁ヲ巻キ其上ニ布ヲ固ク巻キイテ拳指先、足先ヲ鍊ヘル練習スル凡ソ首胸下段ト思ハレル処ニ印ヲ付ケテ練習スル事

## 練習白黙視表

主トシテ月拵指、拵指先ト拵指関節、人差指ト中指、無名指ト三指、五指五本ノ指先、全部ヲ中間キニシテ用テ、面部、足ノ膝頭、次ニ口、足指、足ノ甲ヘカトシ、等モ用テ、手ノ指先ハ主トシテ拵指、此拵指先ヲ用フル時ハ、拳ニシテ拵指先ヲ突出シテ用テ、拵指関節ヲ用フル時ハ、拳ニシテ拵指関節節ヲ用テ、一指、二指、三指ヲ用フル時ハ、如クニシテ、五指共立テ、相方ニ向テ、扱テ打込ム場合、其手ヲ羊関キト変化シテ、其急所ヲ掴ムカ、如キ心持チニテ、当込ム、羊関キハ、此如クニシテ、一指、二指、三指ヲ用フル也、拳ヲ用フル場合ハ、拵指ヲ中ニ折込マズ、外側ニ折ル仁、玉拳ト云フ、四指ノ関節ヲ並ベテ用テ可ベシ、上図ノ如シ、面部ニ用フル場合ハ、マツ毛ヨリ、弁上部ニ用テ、

足ハ膝頭ニテ下段(金的)ヲ主トス脂ノ甲ハ下段、朝霞、<sup>カイ</sup>握、<sup>カク</sup>握、<sup>ヤク</sup>握、<sup>トキ</sup>時ノ当  
 込ニニ用テ足ノ甲(カト)ハ九穴、水月、面部ニ用テ、吾采人形ニ対シ練習ハ  
 足ノ蹴込ニ体モ元ニ返スコナシ指先ハ其技ニ対シ指固メ形ハ形ニシテ急  
 カズ清ク正シク捕ル事ニ於テ技ヲ成ス練習自リヲコタル可カラズ、形ノ  
 練習ノ場合ハ受身ハ皮胴ヲ当テ実地当込ニテ用テ、



骨法術ニ主トシテ使用スル四天八光十二形ト称スルモノ也



初傳

一) 柳ヨリ

投トウ

右ミ 左ヒ  
かけ かけ

平一文字ノ構

右ミ かけ

(受)ハ片袖片胸ヲ捕リニ来ル(取)ハ  
指先ヲ(右手)ニ突上ケルト人ユ時ニ右足ニテ受方ノ右足ヲ大外ノ



如ク掛ケテ投ケル

左ヒ かけ  
左ヒ 技ノ事以下人ユ

三) 押オウ

上カ 七ヤク 段

人ユ 人ユ

人ユ

右ミ かけ (受)ハ右腰投ケテ充分ニ掛ケル(取)ハ右手ハ直ニ放シ後方ヘ廻  
ハス氣持テテ左手拇指先ヲ七段ニグット差込ム(此練羽白ハ七

扱ニ左拇指が二寸当レル丈ケニスベシ  
事實ニ於テハ拇指ヲ差込ム時ハ七日間腰立ヲ不<sub>レ</sub>注意心

左 かけ 人ユレ

三) 抗<sup>コウ</sup> 柳<sup>ヨウ</sup> 人ユ 人ユ 人ユ

右 かけ (受)ハ右拳ニテ面部ニ打込ミ来ル(取)ハ左腕ニテ左ニ受ケ直キニ右拳ニテ表鬼門ニ当込ミ人ユ時ニ左腕ヲ受方ノ右手ノ脇下ヨリ右肩ノ方ニ廻シ左腰ヲ入レ背刀貝杖ケ

左 かけ 人ユレ

四) 指<sup>シ</sup> 倒<sup>トウ</sup> 人ユ 人ユ 人ユ

右 かけ (受)ハ両胸ヲ捕リニ来ル(取)ハ直キニ右手ニ拇指<sup>指</sup>関節ヲ上図ノ如キ形ニテ両腕返シニ当テ左足ヲ退キ体ヲ捻ネル敵ハ倒レル

左 かけ 人ユレ

五) 捕ホ

右 かけ

捉ソク

人ハ人ユ

防備之構

(受)ハ左手ニテ胸ヲ持テ右拳ニテ打込ム(取)ハ左腕ニテ受方ノ右拳ヲ受ケ、右手拇指ニテ声ニ当入り面部ニテ受方ノ顔面ヲ打ツ

左 かけ

人ハ人ユ

六) 放ホウ

擲チキ

人ハ人ユ

人ハ人ユ

右 かけ

(受)ハ左手ニテ胸ヲ持テ右拳ニテ打込ミ来ル(取)ハ左手刀ニテ受方ノ右手ノ目生ヲ跳ネ上ケ右手ハ敵ノ左手目生ニ拇指ヲ当テ掴ミテ上部ニ押し上ケ右腰ヲ入レテ投ケル

左 かけ

人ハ人ユ

(七) 斜シヤ

倒トウ

人二

人二

右 かけ

(受) 右手ニテ胸ヲ拵テ右拳ニテ打込ニ来ル(取)ハ右手ニテ受方ノ右拳ヲ受ケ右手ノ中指ヲ夕霞ヲ打ツト全時ニ膝頭ニテ敵ノ鈴ヲ蹴上ケテ倒ス

左 かけ

人二

(八) 掛カケ

倒タオシ

人二

人二

右 かけ

(受)ハ両胸ヲ捕リニ来ル(取)ハ左右ノ手ヲ拳ニシテ敵ノ表逆ヲ打テ拵ト右足ヲ一歩退ク其ノ退イタ反動ニテ全時ニ敵ノ五輪ヲ右足ノ甲(カト)ニテ蹴リ倒ス

左 かけ

人二

(九) 榨サク

敵手カキ

人二

人二

右がけ

(受)ハ両胸ヲ捕リニ来ル(取)ハ右  
ニ掛ケ上ニ押上げ右足甲ニテ握<sup>カ</sup>ヲ横ニ蹴リ倒ス  


左がけ

人ユジ

(四) 擔<sup>タン</sup>

數手<sup>ケキ</sup>

人ユ 人ユ

右がけ

(受)ハ両拳ニテ打込ニ来ル(取)ハ一ノ腰ヲ落シ両手稍上ニ揚  
ゲル之レハ上虚也実ハ右足甲ニテ水目ヲ蹴リ倒ス

左がけ

人ユジ

(五) 抜<sup>バツ</sup>

枝<sup>キ</sup>

人ユ 人ユ

右がけ

(受)ハ右手ニテ胸ヲ捕ル(取)ハ其右手ノ表逆ニ杯カ左手拇指ノ  
尖<sup>シ</sup>此ノ尖<sup>シ</sup>即ヲ用ヒテ掴ミ左上部ハ逆ニ掛ケルト人ユ時ニ  
右手五指先ニテ受方ノ左横面ノ左ト人トニ当込ニ倒ス

左がけ

人ユジ

右 折 <sup>セツ</sup>

倒 <sup>トウ</sup>

人 人  
人 人

右 かけ

(受)ハ右手ニテ胸ヲ捕ル(取)ハ人ニ時ニ右拳ニテ受方ノ右手ノ弱筋ヲ右方ヘ打込ムト左手ノ中指ヲ佛滅ヘ打込ムト全時

也

左 かけ

人 人

右 指 <sup>シ</sup>

拍 <sup>バク</sup>

人 人  
人 人

右 かけ

(受)ハ両拳ニテ打込ミ来ル(取)ハ右ニシテ右後方ヘ大キク下ルト全時ニ右ニシテ鈴ニ蹴込マントスル上座ニシテ実ハ右拳ヲ陰ニ当込ミ倒ス

左 かけ

人 人

右 拒 <sup>キ</sup>

技 <sup>ギ</sup>

人 人  
人 人

右がけ

(受)ハ両拳ニテ打込ミ来ル(取)ハ右足ヲ右後方ヘ大キク下ルト合  
時ニ右足ニテ時ヲ蹴付ケルト人ニ時ニ右拳ヲ陰ニ当込ム(此、時ト  
云フノハ是ノ内側俗ニ梅干ト云フ処ノ一ヤ前上部也)

左がけ

人ニジ

右十五拵カッ

拵コウ

人ニ  
人ニ

右がけ

(受)ハ両拳ニテ打込ミ来ル(取)ハ右足ヲ右後方ニ一歩退クト人ニ時  
ニ敵ノ右足握サシヲ右足甲ニテ蹴込ミ右手ノ三指ニテ一当、時ノ当  
三当リヲ突倒ス

左がけ

人ニジ

右十六浦ウラ

波ナミ

人ニ  
人ニ

右がけ

(受)両拳ニテ打込ミ来ル(取)ハ両腕ニテ受ケ入込シテ右足  
ニテ敵ノ右足握サシヲ蹴返シ両手拵指一時ニ雨戸ニ打込ム

左 かけ 人エジ

志 天<sup>アマ</sup> 地<sup>チ</sup> 人エ 人エ

右 かけ (受)ハ両拳ニテ打込ニ来ル(取)ハ右足ヲ後方ニ退キ人エ時ニ右足  
指先ニテ鈴ヲ蹴上ケルト右手五指指ニテ左ト人ニ当込ム  
ト人エ時ハ右かけノ時ハ左、左かけノ時ハ右ト人ニ当込ム  
左 かけ 人エジ

志 片<sup>カタ</sup> 卷<sup>マキ</sup> 人エ 人エ

右 かけ (受)ハ両拳ニテ打込ニ来ル(取)ハ入込ニテ両手ニテ受ケ止メ右  
手ハ敵ノ腕ヲ外側ヨリ内側ニ卷込ムト人エ時ニ左手拇指ニ  
テ敵ノ右側佛滅ニ当込ム  
左 かけ 人エジ 左佛滅ニ当込ム

初伝終

(口伝)

元来骨法術ハ敵ヲ寄セ付ケズ近付ケバ必ず倒スト云フノデアアルガ初段ノ形ハ不幸ニシテ敵ニ胸ヲ持タセタリ近付ケタトシテノ形ト知ルベシ

敵ノ兩戸トカ各當ヲ打タントスル場合始メカラ自分ノ手足ハ是先ニカヲ入レテハナラナイ。技ヲ行フ直前ニカヲ入レル事。襟ヲ掴トシテモ何心ナイト云フ気分ニテ一寸襟ヲツマミ扱テ技ヲ掛ケル時ニ拇指ニカヲ入レテ一活ニ倒ス自信ヲ持タネバナラヌ。モレ上虚実ヲ行フ時ハ虚ハ如何ニモ此ノ技ヲ敵ヲ倒スゾト勢力ヲ見セテ実ハ外ニ技ヲ行フ之レハ敵ノ心ニ隙ヲ与ヘルノデアアル。紋々練習ガ重ナルト自然ノ内ニ虚実ガ現ハレハ此込メバ必ず倒ス之レガ骨法術ノ本体デアアル



中傳

先ヅ中伝練羽白ニ先立ツテ飛鳥ノ技ヲ練羽白スル事カ肝要デアアル、其練  
羽白ニハ初メハ言葉人秋ノ腹部ニ当ル処ヲ両足ニテ蹴リ、始メハ仰向ケニ倒レ北月中ヲ道  
場ノ畳且ニ打チツケルデアコウ之ヲ両足ヲ蹴ルト人エ時ニ両手デア畳ヲ打ツテ一廻  
転レテ立ツノ練習白ニ於テ最後ニハ僅カニ両手指先ガ畳且ニ振レル丈ケデア立ツ事  
カ出来ルモノデアアル、又柔道ニヨラズドンナ術ヤ道ヲ練習白レ又ヨホド練習白  
レテイテモ剛胆ナ人デアアツテモ人同ニ誰シモ何カレラ不安ニサソハレル、ウマク  
技ガ掛ルカ知ラント云フ不安ノ念ニカラレ技ガ出ナイ杯ナ事ガ有リ勝テ此  
時ハ神心ニ依ルデアアル、神心ト云フト何カ迷信的ナ杯ニ聞ヘルガ決レテ然ラ  
ズ、神心ト云フ事ハ言葉ヲ云ヒ替ヘルト無念無相心トモ言ヘルガ此時相手  
ハ一ツノ人形ニシカズト云フ自信ト強イ確信ヲ持ツテ敵ニ当ル可キデアアル、大  
古ニテハ戦フ前ニ右手ノ人差指ニテ左手ノ掌ニハ神龍トト三度書ク其上戦  
フタト云フ、之レヲ神示ト云フテイル、則チ強イ精神ヲ植付ケンガ為メナル可シ

何ダカ不思議ナ術ノ現ハレノ如ク伝ヘテイルカ実ハ自信デアル。自覚デアル。  
虎倒流祖戸田一心斎ヨリ天文年間百地三太郎ニ伝ヘラレ十一代戸  
田大三郎近敏系迄デ伊加貝流忍術者ノ秘伝武術トシテ骨法術  
ヲ行ハレタノデアル。一方此生判官義鎧房ハ代々義鎧流骨法術トシ  
テ広ク伝ヘラ其子孫ニ伝フ。又鈴木大善大夫近政ハ玉虎流。出雲流骨  
法術トシテ伝ヘ。又依々木源太夫貞安ハ此術ヲ打拳術ニ加ヘ玉心流骨  
法打拳術トシテ紀州ニ広ム。又戸田真龍軒ハ本体義鎧流。鉗形石術  
飛鳥術。虎倒流骨法術トシテ播州方面ニ広ム。神伝不動流体術高  
松先生ノ恩師タリ高松翊翁先生ヨリ上野 貴澄水虎倒流骨法  
術ヲ十五代ヲ継承ス

一 飛 飛

打

右 かけ  
左 かけ

右 正眼ノ楯

右 かけ (受)ハ我レニ向ハントス (取)ハ出シテイタ右手ヲ引クト人ニ時ニサ落シ  
テイタ腰ヲ直立シ足ノ向キガ左向ケノ形ニ変化スル。此ノ如ク体勢力ハイツデ  
モ此ノ如クデアル。始メハ「カニ」ノ横バイノ如ク見苦シイ形デアルガ今テ技ヲ十

左 かけ

サントスル場合、又ハ敵ノ攻敵手ヲ変ハサントスル場合イツデモ  
変化スル体勢デアル。此体勢力ハイツデモ此如クナリ飛飛打ノ  
場合(受)ハ我レニ向ハントス(取)ハ人ニ時ニ右手刀ニテ敵ノ両足返シ  
ヲ打テ人ニ時ニ右足先ニテ鈴ニ掛ケ倒シテ右足ヲ退キテ残  
心ノ構トナル

(二) 飛飛

控

人ニ 人ニ

人ニ

右 かけ

(受)ハ我レニ向ハントス(取)ハ充分ニ近付ケテ三尺ノ処デ体ヲ立直シ右  
手拇指先ヲ敵ノ両戸ニ当入レ人ニ時ニ両足ニテ敵ノ胴ヲ挟ミ締メ  
テ人ニ時ニ両手ニテ敵ノ両足キビスヲ引ク敵ハ仰向ケニ倒ル。右  
足握リ我ガ右手ヲ痛メ締メニナス

左 かけ

(三) 飛飛

自由

人ニ 人ニ

人ニ

右がけ

(受)ハ我レニ向ハントス(取)ハ前ト人ユジク、右手五指ニテ敵ノ左ト人ニ当込ミ人ユ時ニ右足ニテ陰ニ蹴込ミ退イテ残心ノ楯

左がけ

人ユジ

(四) 飛ヒ飛ヒ

倒トウ

人ユ 人ユ

人ユ

右がけ

(受)ハ我レニ向ハントス(取)ハ前ト人ユジ、右手三指ニテ表鬼門ニ当込ミ其反動ニテ兩足ヲ以テ敵ノ左右御滅ヲ蹴込ミ後兩手疊且ヲ叩イテ其反動ニテ元ノ楯トナリ残心ヲナス

左がけ

人ユジ

(五) 括カツ

飛ヒ飛ヒ

人ユ 人ユ

人ユ

右がけ

(受)ハ我レニ近付カントス(取)ハ前ト人ユジ、右手刀ニテ敵ノ兩戸ヲ打テ左手刀ニテ左兩戸ニ打込ミ後口ニ充ルカ飛ヒ退キ残

左 かけ 心、楯 人エジ

此中伝ノ秋ハ飛飛同キ、飛飛ゴ退キ、中返リ筭書キアルハ、飛飛同ク時ハ、一間以上横ニ開ク、退ク時モ人エジ一間以上此練羽白ト指先、手刀、拳、両足、練羽白トス

(六) 柵<sup>モシ</sup> 飛<sup>ヒ</sup> 人エ 人エ 人エ

右 かけ (受)ハ柵ニ近付キ来ル(取)ハ右手、四指ニテ脇ヲ掴ミ、柵指ヲ敵ノ御減ニ當テ捻ネルガ如クニ当入レ人エ時ニ右足ニテ敵ノ右足ノ声ヲ蹴倒ス、退イテ残心ノ楯

左 かけ 人エジ

(七) 反<sup>スリ</sup> 倒<sup>トウ</sup> 人エ 人エ 人エ

右 かけ (受)ハ両拳ニテ打込ミ来ル(取)ハ両手ニテ煩ニ受ケ止メ後口ニ飛飛ゴ

左 かけ

人ユヰ

退イテ楯へ敵再ビ飛込ニ来リ左腕ニテ我が首ヲ抱へ腰  
抜ケニ来ルヘ取ハ右肘ニテ敵ノ左佛滅ニ当込ニ其拳ヲ直ガ  
上ケ敵ノ人又ハ齒止ニ打込ニ左手ハ敵ノ左首ヲ拵ツ手首ヲ  
捕リテ体ヲ充分カニ落レテ右足ヲ敵ノ前ニ出レテ投ケル

右 龍<sup>五口</sup>

飛<sup>ヒ</sup>

人ユ

人ユ

右 かけ

（受）ハ近付キ来ル（取）ハ右手ニ指ニテ一当、時、当、三当ノ三個所ヲ  
指先ニテ下ニ押ス（猫ガ下度カク如ク）押レ当テ左手五指ノ掌  
ヲ上向ケニレテ敵ノ咽喉（喉ノ裏）ニシ当テ右足ニテ大外、如ク  
レテ投ケル

左 かけ

人ユヰ

左 撒<sup>ハシ</sup>

飛<sup>ヒ</sup>

人ユ

左 正眼之楯

右がけ

(意ハ近付キ来ルハ取)ハ前ト人エビク三指ニ敵、一当、時、当、三当三ヶ所ヲ一時ニ下方ニ押ス、左手五指ニ敵、右ト人ニ突キ当テ右横ニ一廻程ニ飛退キ、残心ノ構、之レハ敵ガ後方ニモ有ルト云フ心構也

左がけ

人エビ

右擲

返

人エ 人エ

人エ

右がけ

(意)ハ近付キ来ルハ取)ハ右手ニテ敵ノ左手ヲ脇下腕ノ方ヘ下ノ処ヲ弱筋ノ一処ニシテ右ノ手ニテ敵ノ腕ヲ掴ム弱筋ノ一処ヲ自然敵ハ腕ヲ上ニ揚ケル右足ノ甲ニテ敵ノ左腕ヲ蹴込シテ人エ時ニ敵ノ左腕ヲ引下ケル此ノ時呼吸ニテ敵ハ前方ニ中返リシテ倒ル

左がけ

人エビ

喉

倒

人エ 人エ

人エ

右がけ

(受)ハ近付キ来ル(取)ハ右手三指ヲ敵ノ一当時、三当リシ  
一時ニ押下ケル人ニ時ニ拵指ニテ敵ノ右襟ヲ突上ケテ右足鈴  
ヲ蹴倒ス退イテ残心ノ楯

左がけ

人ユジ

三

攫又

飛

人ユ

人ユ

右がけ

(受)ハ近付キ来ル(取)ハ右手、拵指ヲ敵ノ右襟ヲ上部ニ突  
上ケルト人ニ時ニ其キヲ拳ニシテ朝霞ノ充分ニ上部ニ突  
上ケルコトハ内股ノ如クシテ突倒ス退テ残心ノ楯

左がけ

人ユジ

中伝終

骨法術ノ指ノ使ヒ、称ガ肝心デ上部ニ突上ケル坪ト下部ニ押下ス  
坪、真直ガ当入レル坪、骨般血ヲ握ヒガ如クスル坪トアル事ニ注  
意



奥  
傳

(一)  
楯サシ

トウ  
小三

右  
右  
左  
かけ  
かけ

自由  
楯

右  
かけ

(受)ハ 飛飛込ニ 来リ 祢カ 胸禮ヲ 右手ニテ 捕リ 左手ニテ 祢ガ 右  
袖ヲ 掴ミ 内股ニ 掛ケテ 杖カントス (取)ハ 右拳ニテ 敵ノ 内股ニ 掛  
ケタ 左足ノ 握ノ 裏表ヲ 上ヨリ 叩キ 落シ 左拳ニテ 敵ノ 胸ヲ 持ツ  
右腕ノ 屈シ 下ヨリ 打上ケ 退イテ 残心ノ 楯

左  
かけ

人ユ  
人ユ

(二)  
楯

倒

人ユ  
人ユ

右  
かけ

(受)ハ 小刀ヲ 才具一文字ニ 構ヘ 祢カ 胸ニ 突込ニ 来ル (取)ハ 左正眼楯

右 かけ

へ右足ニ重身ヲ置キ膝回へ体ヲ退ク丈ヶテ敵ノ小刀ハ拵が左側ニ流レル。拵が左手五指ヲ引テ足ヲ突キ人ニ時ニ左手ニテ敵ノ小刀ヲ持ツ右手首ヲ掴ミ右足ヲ入込ンデ右拳ニテ敵ノ右表逆ニテ内側ニ打ツ敵ノ小刀ハ飛下、直ニ右手拇指ヲ敵ノ表逆ニ當テ持テ体ヲ右向ケニ変化スル。敵ハ右手が逆トナリ伏向ケトナル右足ニテ敵ノ右足ヲ蹴リ蹴上ケル突倒ス

人ニジ

右 上虎

倒  
人ニ  
人ニ

右 かけ

(夢)ハ小刀ヲ大上段ニ引テ切込ニ来ル(取)ハ右足ヲ一歩敵ノ右足ノ前ニ飛込込ト人ニ時ニ右拳ニテ敵ノ右手足ヲ突上ケ直ニニ左右両手同時ニ八葉(八葉)ヲ手當ニテ打ツ右膝頭ニテ敵ノ鈴ヲ蹴上ケルト人ニ時也

右 かけ

人ニジ

(四) 神 シン

前刀 セン

人二

右がけ

(受)ハ両手ニテ両襟ヲ捕リテ締メ来ルハ取ハ両手皆手ニテ一時ニ敵ノ左右ノ八葉ヲ打ツト頭部ニテ敵ノ面ト人ニ打付ケルトト人ニ時也

左がけ

頭部ニ顔面ヲ打付ケルカハリニ右手刀ニテ敵ノ右亦敵ヲ打ツテ倒ス

(五) 柵 コシ

飛 ヒ

人二

右がけ

(受)ハ正ニ近付キ来ラントスハ取ハ左足ヲ一歩敵ノ右足前ニ進メ左手刀ニテ敵ノ面ヲ打付ケルカハリニ右手刀ニテ敵ノ右亦敵ヲ打ツ

左がけ

人二

(六) 如手 ジョ

柵 セツ

人二

右 かけ (受)ハ近付キ来ル(取)ハ右手ニテ十字路ヲ拵指テ下ニ突キ全

時ニ体ヲ右斜メニテ右足ニテ敵ノ五輪ヲ蹴倒ス

技 右手ヲ使フト右足ヲ使フト体ヲ斜メニスルト三拍子ノ事

左 かけ 人ユジ

(七) 右 かけ 梳 (セツ) 人ユ

右 かけ (受)ハ近付キ来ル(取)ハ両手ニテ敵ノ両脇ヲ掴ミ拵指両手共両

御減ニ当テ体ヲ二テ斜メニ捻ネリ左足ヲ右足ノ後方ニ突シ

テ技ケル之レモ技ニ拍子ノ事

左 かけ 人ユジ

(八) 右 かけ 梳 (ソウ) 倒 (トウ) 人ユ

右 かけ (受)ハ近付キ来ル(取)ハ両手ニテ敵ノ襟上ヲ掴ミ両手拵指左

右共襟ニ掛ケ下ニ押シ当テ引イテ袷が頭部ニテ敵ノ面部ニ

打付ケ右足シ敵ノ声ニ掛ケ車返シ(則チ巴返シ)ニシテ敵ト共ニ中返リシテ敵ヲ馬乘リトナシ締メル

左 かけ

右 かけ  
和コウ 鬼キ  
人ユ 人ユ

右 かけ  
(受)ハ近付キ来ル(取)ハ両手掌ニテ敵ノ八葉ヲ左右人ユ時ニハタキ両足ニテ敵ノ水月ヲ蹴リ倒シ其反動ニテ我ハ中返リシテ元ノ楯トナル

左 かけ  
鬼  
門  
人ユ 人ユ

右 かけ  
(受)ハ近付キ来ル(取)ハ右手ニテ敵ノ脇下ヲ掴ミ拇指ヲ鬼門ヲ押シ人ユ時ニ腰ヲ入レテ左足ヲ充分ニ退キ坐シテ抜ケル

左 かけ  
人ユ

右 乱ラニ

雷子セツ

人二 人二

右 かけ

(受)ハ近付キ来ル(取)ハ前ト人エジク脇下ヲ両手ニテ掴ミ指デ鬼門ヲ押し人エ時ニ敵ノ面是ノ中ニ我体ヲ流シ込ム敵ハ伏向ケニ顔面ヲ地上ニ打ツケル如ク倒ル(稽古ノ時ハ受方ハ中返リヲオス)

右 かけ

体ヲ横流シトスル事

右 裏鬼

門

人二 人二

右 かけ

(受)ハ近付キ来ル(我)ハ右手ヲ上図ノ如ク乳ヲ掴ムカ如クニシテ五指ヲ以テ裏鬼門ヲ突キ右足ニテ五輪ヲ蹴リ倒ス

右 かけ

人エジ

奥伝終



許之傳

佛

心

許ノ佛心トハ此ノ骨法術ノ本体ヲ言ヒ表ハセシ事ニシテ  
 例ヘバ敵ガ近付キ来ル我レ右手ヲ敵ノ方ニ出シテ居ル時ハ右手  
 ハ縮メ右手ヲ右横ニ出スト今時ニ右横ニ飛飛ビ退ク右手ヲ出シテ  
 居ル時ハ右手ヲ縮メ左手ヲ右横ニ出スト今時ニ右横ニ飛飛ビ退  
 ク後口ニ退ラントスル時ハ一度両手ヲ前ノ地ニ付ケ後口ニ飛飛ビ  
 退ク上部ニ飛飛バントスル時モ体ヲ落シ地上ヲ右手ニテ叩ク氣  
 合カニシテ飛飛ビ上ルツツマル處敵ヲ痛メズ我レ逃ガルニ  
 敏捷ナル技ニテ本法ノ骨子ナリ

(二) 鬼

心

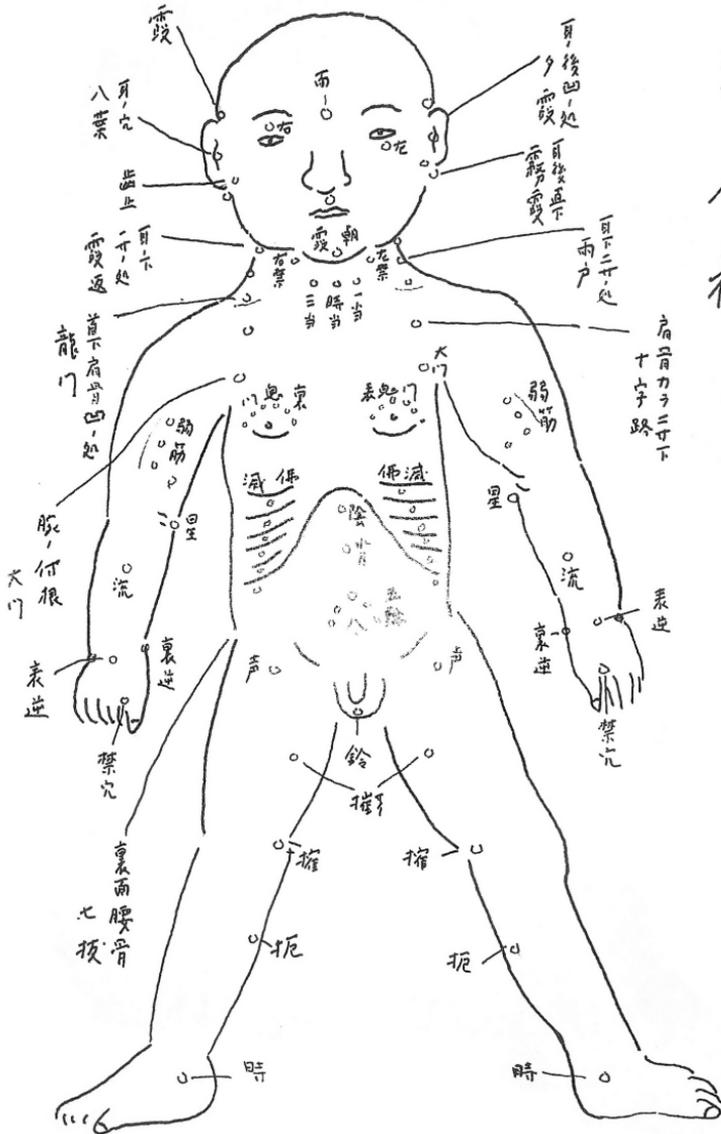
敵四方八方ヨリ来リ我レ逃ガルニ術ナク止ムヲ得ズ心ヲ鬼ニシテ  
敵ヲ倒スニハ骨法術者が常ニ西女音心セルセニ鋸ハ石ン杖ケへ手  
裏劔シヲ用ヒ敵ヲ比白倒シ静カニ退ク

(三) 神

心

之レハ敵ヲ一見シテ前知シ精神修養ニ於テ敵ノ精神ヲ  
サクランセシムル事がアルガ之レハ高天原宗門之巻已ニ  
コ属ス

# 当达急所 古名称



右虎倒流骨法術無殘伝授候也

昭和三十拾年拾二月廿日

上虎倒流骨法術

元祖

户田一心斎

信綱

百地三太夫

二代百地三太夫

童口城主百地丹波泰光

百地太郎依正門

户田威四柳信綱

戸田不動信近

戸田觀五郎信安

戸田英三郎信正

戸田新五郎正良

戸田大五郎近秀

戸田大三郎近敏系

戸田真龍軒正光

高松壽嗣翊公

伴

上野

申貝

上野

伴

我

国

信

如

神道天心流拳法才三十九代

虎倒流骨法術才十五代祖

宗家上野

如

